2026 年 11 月更新



結核



結核は、結核菌によって起こる感染症です。日本では毎年約 1 万人の方が新たに発症しており、現在でも注意が必要な感染症です。年齢に関係なく、誰でもかかる可能性があります。



主な症状

結核菌は主に肺で増殖し、次のような症状が現れます。
咳・痰・血痰・微熱・食欲低下・体重減少、症状が進行すると、肺の病変が広がり、呼吸が苦しくなることがあります。また、結核は肺だけでなく、腎臓・リンパ節・骨・脳など、さまざまな臓器に影響を及ぼすことがあります。

感染経路

結核患者の咳やくしゃみによって空気中に放出された結核菌を吸い込むことで感染します。これを飛沫感染といいます。ただし、結核菌を吸い込んだからといって、すぐに発病するわけではありません。



感染と発病

★「感染」とは

結核菌が体内に入った状態をいいます。感染していても、すぐに病気になるわけではなく、症状もありません。また、他の人へうつすこともありません。免疫力が低下した時に発病することもありますが、免疫力を保てれば一生発病しない方もいます。

★「発病」とは

体内の結核菌が増えて病気を引き起こした状態をいいます。発病すると咳や発熱などの症状が現れ、病状が進行すると他の人へ感染させる可能性があります。

予防



★予防接種（BCG）をうけましょう

乳幼児期に接種するワクチンです。結核の発症や重症化を防ぐ効果があります。母子健康手帳で接種歴を確認しましょう

★免疫力を高めましょう

適度な運動、十分な睡眠、バランスの良い食事、禁煙など健康的な生活をこころがけましょう。

★定期健診を受けましょう

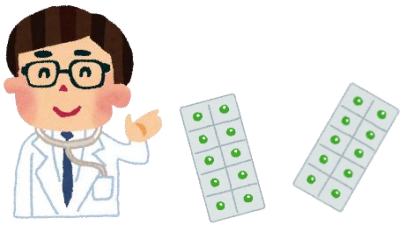


早期発見のためには胸部エックス線(レントゲン)検査が有効です。定期健康診断を毎年受けましょう。

★症状が続くときは早めに受診しましょう

痰が絡む咳、体のだるさ、微熱などの症状が 2 週間以上続く場合は、早めに受診しましょう。
結核が進行すると咳やくしゃみによって周囲の人へ感染を広げる可能性があります。早期発見・早期治療が重要です。

治療



複数の抗結核薬を組み合わせて、通常 6 か月以上服用します。

★治療中の注意

症状がよくなったからといって、自分の判断で薬をやめてはいけません。
薬を途中でやめたり、指示どおりに服用しなかったりすると、結核菌が抵抗力をつけ、薬が効かない薬剤耐性結核になることがあります。
薬剤耐性結核になると治療が難しくなるため、医師の指示を守って、治療完了まできちんと薬を飲み続けることが最も重要です。

- **東京都感染症情報センター**
  https://idsc.tmiph.metro.tokyo.lg.jp/diseases/tb/
- **厚生労働省**
  https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou03/index.html
- **公益財団法人結核予防会結核研究所**
  https://jata.or.jp/about/basic/

國學院大學保健室